【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】令和6年5月7日(2024.5.7)

【国際公開番号】WO2023/228300
【出願番号】特願2022-565748(P2022-565748)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｋ　7/22(2006.01)
Ｇ０１Ｋ　1/08(2021.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｋ　7/22　　Ｃ
Ｇ０１Ｋ　1/08　　Ｑ

【手続補正書】
【提出日】令和4年10月27日(2022.10.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
金属製の保護管と、
感熱体と、前記感熱体に電気的に接続される一対の導電線とを備え、前記保護管に収容されるセンサ素子と、
前記保護管の内部において、一対の前記導電線の相互における電気的な絶縁を担う第１耐熱絶縁体と、
前記第１耐熱絶縁体と前記保護管の間に設けられ、前記導電線と前記保護管との間における電気的な絶縁を担う第２耐熱絶縁体と、
を備え、
前記第１耐熱絶縁体には、
一対の前記導電線の一方だけが挿通される、
ことを特徴とする温度センサ。
【請求項２】
前記第２耐熱絶縁体は、筒状のセラミックス製部材から構成される、
請求項１に記載の温度センサ。
【請求項３】
前記第２耐熱絶縁体は、筒状のガラス製部材から構成される、
請求項１に記載の温度センサ。
【請求項４】
前記第１耐熱絶縁体には、一対の前記導電線のそれぞれが独立して挿通される、
請求項１から請求項３のいずれか一項に記載の温度センサ。
【請求項５】
電気的な絶縁材料からなり、一対の前記導電線の間の電気的な絶縁性を担保するための一対の筒状絶縁体をさらに備え、
一対の前記導電線は、前方が閉じられた端部を備える前記保護管の前記端部の側の領域である第１領域が前記第１耐熱絶縁体に挿通されるとともに、前記第１領域よりも後方の第２領域がそれぞれ一対の前記筒状絶縁体に挿通されている、
請求項１に記載の温度センサ。
【請求項６】

前記第２耐熱絶縁体は、
後方（Ｂ）の側において、一対の前記導電線を覆う前記筒状絶縁体に跨る、
請求項５に記載の温度センサ。
【請求項７】
前記導電線は、
前記筒状絶縁体の設けられている領域が、カシメ保護被覆を介するカシメにより前記保護管に機械的に固定される、
請求項６に記載の温度センサ。
【請求項８】
前記保護管は、さらに前記保護管の長さ方向に交差する方向へ延在するフランジを備え、
前記第２耐熱絶縁体の前記長さ方向の寸法は、前記保護管の前記端部から前記フランジの設けられた位置までの前記長さ方向の寸法以下に設定されている、
請求項５に記載の温度センサ。
【請求項９】
前記導電線は、
前記筒状絶縁体の設けられている領域が、カシメ保護被覆を介するカシメにより前記保護管に機械的に固定され、
前記カシメは、
前記保護管の前記フランジが設けられた位置から後方においてなされている、
請求項８に記載の温度センサ。
【請求項１０】
前記保護管の外表面は、黒色とされている、
請求項９に記載の温度センサ。
【請求項１１】
請求項１に記載の温度センサが加熱室に配設されている、
加熱調理器。